

平成 28 年度
上宮太子中学校・高等学校
学校評価関係

1. 規定
2. 各部署の年間計画及び総括
3. 各部署の中間評価
4. 授業アンケート分析
5. 保護者アンケート集計結果
6. 学校評価の報告書
7. 学校関係者評価委員会の報告書

上宮太子中学校・高等学校 学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日 制定

(趣旨)

第 1 条 この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)

第 3 条 学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条 自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。

2 学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)

第 5 条 学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、学校評価主任、学校評価担当を委員とする学校評価委員会を設置する。

2 学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価主任は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)

第 6 条 学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。

2 自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)

第 7 条 学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は 5 名程度とする。

- (1) 保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
- (2) 学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員

(3) その他、必要に応じて学校が選出する委員

2 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

3 学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。

4 学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。

5 学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。

6 学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第 7 条第 1 項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。

7 委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)

第 8 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)

第 9 条 学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。

(事務の所管)

第 10 条 この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附則

この規定は、平成 23 年 3 月 18 日から施行する。

平成28年度
学校評価に関する
各部署の年間計画及び総括

上宮太子中学校・高等学校
学校評価委員会

部署名	高校教務部	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ①学校目標に基づいて、カリキュラム・シラバスの改善検討を実施する。
- ②教務内規全般の継続的な検討。
- ③教職員の各種届出の管理、先生方の出勤簿への捺印の徹底
- ④財務面と生徒の利便性が両立出来る運行表の作成
- ⑤生徒を主体とした清掃活動の実施
- ⑥教員の美化意識の向上

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①学校目標に基づいて、カリキュラム・シラバスの改善検討を実施する。 ・より高い進学実績が出せる工夫の検討を進める。	B	B
②教務内規全般の継続的な検討。 ・教務内規の整理と現状に即した内規の変更。	B	B
③教職員の各種届出の管理、先生方の出勤簿への捺印の徹底 ・さまざまな機会に先生方に呼びかけ、遺漏なきようにする。	A	B
④財務面と生徒の利便性が両立出来る運行表の作成 ・各学年、各行事、クラブ活動等の情報を収集しながらロスのない運行表の作成に努める。	A	A
⑤生徒を主体とした清掃活動の実施 ・「一に掃除」の意識を共有できる取り組みの検討をおこなう。	B	B
⑥教員の美化意識の向上 ・先生方の自席ならびに職員室の美化に努める。	B	C

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- ① 各部署と連携をとり、より教育効果が高まるよう努めた。
- ② 教務内規について研究・検討をすすめたが、改善には至らず、今後の課題である。
- ③校内清掃に関しては新たな取り組みはできなかったが、今年度は、清掃の意識を高めるための呼びかけを繰り返しおこなった。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ①学校目標に基づいて、カリキュラム・シラバスの改善検討を実施する。
- ②教務内規全般の継続的な検討。
- ③教職員の各種届出の管理、先生方の出勤簿への捺印の徹底
- ④入試業務における各部署との連携強化
- ⑤財務面と生徒の利便性が両立出来る運行表の作成
- ⑥生徒を主体とした清掃活動の実施
- ⑦教員の美化意識の向上

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	生徒指導部	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

生徒相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活できるようにする。		
	1 教職員への啓発・発信	2 スクールカウンセラーと教職員との連携	
生徒会	1 生徒会活動の活性化	2 ボランティア活動の実施	
	3 あいさつ運動の推進	4 生徒会活動の研究	
生活指導	1 生徒指導の推進と問題行動の予防強化 2 道德意識、規範意識の向上		
	3 いじめ・不登校、配慮を要する生徒への取り組み 4 生徒の愛校心向上		

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
生徒相談		
1. 研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。	A	B
2. カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整を行う。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握する。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。	B	B
生徒会		
1. 行事の企画・運営 日常の活動内容の明確化・実行	B	B
2. 外部団体と連携し、清掃活動などを実施・意識の向上	B	C
3. 学校全体の活気ある雰囲気づくり（朝の立ち番・委員会活動など）	B	B
4. 他校の生徒会活動の研究（委員会活動・体育大会・文化祭）	C	C
生活指導		
1. 全教員による一律指導を目指し、生徒指導実践内容を改訂・明確化 大阪私学生徒指導連盟の活動で得た情報を校内に生かす取り組みの実施	B	B
2. 始業式・終業式・御忌式・全校朝礼の際、全校生徒に対して指導、説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施 生徒自治会との連携	A	A
3. 「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校、配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	B	B
4. 「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映	B	B
〔そ の 他〕 高校新入生対象企画「保護者から生徒への手紙」を高 1 学年に提案、実施	A	A

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

生徒相談	スクールカウンセラーの来校日数とカウンセリング希望者の数が増え、行き、対応がスムーズに行えたと思う。次年度もこの状態でつなげていきたい。
生徒会	「生徒を中心とした学校行事運営」をテーマに行った。体育大会・上宮祭は、その基礎づくりが行えたと感じる。委員会活動は、中学においては活発だったが、高校では、担当教員に依るところが大きかったため、実質的な活動はあまりできていない。
生徒指導	各学年毎に担任と学年生活指導係が連携して生徒の状況の把握に努めており、校内での大きな問題の発生は 2 件に留まった。但し、外部からの苦情や SNS でのトラブルもあり、生徒の校外での規範順守、公衆マナーの指導については今後も検討する必要がある。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

生徒相談	スクールカウンセラーへの相談の多い「発達障がい」や「不登校」については、継続してスクールカウンセラーとともに検討・研究していきたい。また、「不登校」については、上宮高校（天王寺）で開催されている「不登校を考える会」への参加をすすめたい。
生徒会	・生徒を中心とした学校づくり（行事・生徒議会・委員会活動） ・生徒の規範意識の向上 ・広報活動（説明会への協力・地域行事への参加）
生活指導	・校訓、学順に基づいた生活の体現を目標とする。 ・挨拶指導の徹底。 ・校則違反や違反物持ち込みに対する注意喚起の強化。 ・教員間での指導における認識の統一。 ・防犯意識を高めるための講演の実施。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	進路指導部	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

生徒の「学力向上」のため、不惜身命の精神で次の各項目に取り組む

- I. 学年、教科、分掌への協力
- II. 中学進路指導の構築
- III. 5 年後、10 年後への投資

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
I. 学年、教科、分掌への協力		
a. 読書指導推進 ⇒図書教育	C	C
b. 家庭学習推進（スタディサブリの活用含む） ⇒学年・教科	B	C
c. 模試の事前・事後指導、結果分析 ⇒学年・教科	B	C
d. 生徒、保護者、先生方への情報発信 ⇒学年・教科・教務	B	C
e. 特別授業、特別考査などの企画、立案 ⇒教務	C	C
f. 生徒の希望進路（医療看護系、栄養系等） を見据えたカリキュラム研究、立案 ⇒教務	C	D
II. 中学進路指導の構築		
g. 進路指導 LHR（進路指導講演会含む）企画、立案	B	B
h. トップレベル講習運用、検討	A	C
III. 5 年後、10 年後への投資		
i. 進路指導部内の職場環境改善	C	C
j. 大学入試制度改革に関する研究、啓蒙	C	C
k. AL（アクティブラーニング）に関する研究、啓蒙	B	B

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- I. a. 読書推進（読書する生徒が増えているとは言えない。）
b. 家庭学習（高 1 スタディサブリ提出率は 8 割を超えているが、
中身が十分とは言えない。）
c. 模試（全体の分析・事後指導は実施できているが、十分とは言えない。）
d. 情報発信（生徒、保護者、先生方の全てにおいて、情報発信が不十分である。）
e. 特別授業（時期によるが、学年中心で工夫して実施されている。）
f. カリキュラム（新カリキュラムの作成は完了している。）
 - II. g. 中学 LHR（中 3 において、有効な講演会を実施できた。）
h. トップレベル講習（取り組み状況の改善は見られたが、
学力向上につながるかは疑問である。）
 - III. i. 業務改善（全体的に業務量が多いので、業務の見直しと工夫が必要である。）
j. 入試改革（進路指導部以外の先生方への情報発信が課題である。）
k. アクティブラーニング（進路指導部以外の先生方も含めて、
3 教科の先生方にセミナーに参加していただいた。）
- ※その他 高校 LHR（特に、高校 1 年後半～高校 2 年前半の計画が不十分である。）

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ① 中学に関しては、引き続き「読書」と「自立」をキーワードとして、進路指導に取り組む。基礎学力の定着と向上に加え、「思考力」「判断力」「表現力」を育む。
- ② 高等学校に関しては、引き続き「進学実績の向上」に取り組む。教科・学年と目標実現のための手段・方法について話し合い、生徒の学力向上に努める。
- ③ より生産性の高い進路指導体制を作る。教科・学年に対してリーダーシップを発揮し、生徒の学力向上を通して進学実績を向上させる。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	入試対策部	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

（１）中学入試における受験者数確保のための活動 （２）高校入試における受験者数安定化のための活動 （３）情報の収集・共有化 （４）今後に向けての対応策検討
--

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
（１）中学入試における受験者数確保のための活動 中学入試の現状は、上宮太子に限らず厳しい状況が続いている。その中で、受験生を増やし定員数を確保するための活動を強化する。 ①中学受験を行っている塾への訪問回数を増やす。 ②説明会等への参加者に対し、継続的に直接的なアプローチを試みる。 ③塾だけでなく多方面への広報活動を行う。	A A A	A B A
（２）高校入試における受験者数安定化のための活動 私学無償化の改正や公立校の入試制度改革、少子化の影響もあり、高校受験者も減少してきている。公立中学校において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定させるための活動を強化する。 ①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。 ②出張授業や学校訪問などの受け入れ態勢を強化する。 ③公立中学校を通し、イベント告知を重点地域の生徒全員に行う。	A B A	A B B
（３）情報の収集・共有化 受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図りうる環境を整える。	B	B
（４）今後に向けての対応策検討 少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討していく。	B	B

* 遂行度…項目の進捗状況
達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

・中学入試、高校入試ともに受験生、入学者を増加することができた。

・中学入試においては、様々な行事や説明会なども例年以上に充実した内容で開催することができ、参加者数も多く、その後の聞き取りにおいても満足度は高かった。

また、適性検査型のプレテストと入試も教科の多大なる協力のもとに実施することができ受験生を大幅に増加することができた。入学者数も昨年より２０％増加したが、目標としていた募集定員３５名には届かなかった。学校としても精力的に募集に向けて取り組んだが、中学入試市場の冷え込みが根底にある。

・高校入試においては、すべてのイベントにおいて例年以上の参加者を獲得することができた。特に、大学進学実績の向上はダイレクトに受験生に響いたものと思われる。受験生、入学者ともに増加し昨年より１５％の増加となった。そして、今年度の入学者の学力も例年より高くなった。

・入試対策部として、取り組み内容は概ね達成できたのではないと思われる。しかし、学校全体での情報共有の点においては、もう少し頻繁に発信することができたと思う。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

・今年度の取り組みを次年度はさらに発展させていかなければならない。

・年々厳しさを増す私立校への環境の中で、上宮太子が残っていくためには、魅力ある学校づくりを推進していく必要がある。学校づくりのために、他校の取り組みや受験市場の動向をしっかりと分析し、学内に発信し更なる共有化を進めていかなければならない。

・次年度は、中学入試において上宮太子単独での募集は停止することになる。学園として新たな中学校を設置し募集することとなるが、上宮、上宮太子が様々な点において密な連携を取り、学園として一つとなって、学校づくりと受験生獲得に精力的に活動していきたい。

・高校入試ではよい軌道に乗ってきたが、まだまだ上宮太子が受験生にとって一般化していない。よい流れになっているので、今後より一層上宮太子が定着するように活動していきたい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	国語科	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

1. 全体的な国語力の向上、読書習慣の確立による読解力の向上
2. 各学年の学習指導計画をより充実させるための研究
3. 受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
4. 教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック（教員のスキルアップ）

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
1、 全体的な国語力の向上		
① 生徒の国語力に対する理解度・学習到達度の確認	B	B
② 生徒の学習定着をはかるための方策研究	B	B
③ 積極的な読書指導による読解力向上への取り組み	C	C
④ 教科会での国語力向上についての意見交換	C	C
2、 各学年での学習指導内容の研究		
① 模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認。	B	B
② 特進コース →センター、国公立の大学入試に即応できる実力養成	B	B
③ 総合進学コース →推薦入試への対応 小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策 学習指導内容の改善	B B	B B
3、 受験対応力向上へ向けたアプローチ		
① 各学年における講習の充実	C	C
② 教材や指導法における受験対応力強化の工夫	B	B
③ 授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み	B	B
④ 国公立大学・難関私立大学の出題研究	B	B
4、 教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック		
① 予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ	A	A
② 教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催	B	B
③「論理エンジン」はじめ、教科内の教員による勉強会実施	B	B

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

今年度も、総合進学コース、特進コースとも、大学入試に向けて全体的な改善ができるようにと思ってきたが、3 年生は残念な結果に終わってしまった。

総合進学コースにおいては、やはりまだまだ達成度や生徒のやる気の部分で、しっかりと彼らの意識の中に入り込めていない感がある。高 3 担当の先生方の工夫により、大学別の講習を充実することができたのは好材料であった。

特進クラスにおいては、本年度の 3 年生は、現代文、古典とも基礎力の弱さを克服できず、スピードを上げて正確に読めるところまで、トレーニングを積みなかった。来年度以降、低学年次でのトレーニングの意識を改め、二次演習も含めて、最終的な結果につながるよう再びしっかりと取り組んでいきたい。古典分野でも、もっと地力を養成する部分を見直すべきである。来年度に関しても、今一度、しっかりと足下を固めつつ進めていきたい。

総じては、まだまだぬるま湯の中にいるような生徒が多く、勉強への意欲も危機感もまだまだ低い。一言で言うともったいない生徒が非常に多い。教員側のアプローチももっと変えていかなければならないと思う。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

総合進学コースの授業内容の改善、実力伸長への取り組み

- ・小テストの充実、授業の進め方の改善、授業の活性化
- ・トレーニング（問題演習）の取り入れ

特進コースの授業内容の改善、実力伸長への取り組み

- ・現代文分野での、論理エンジンを軸とした論理力向上へのプログラム強化
- ・古典分野での基礎力の徹底、反復演習の強化、大学入試問題の研究

不易流行の部分

- ・読書指導を通し、言葉に触れることの大切さ、楽しさを伝える。さらに、論理力や語彙力、表現力の向上にもつなげる。

来年度も、生徒のやる気を引き出しながら、生徒に負荷をかけつつ、実力を伸長させていく方針を強化・模索していきたい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	社 会 科	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- 1、授業の厳正化
- 2、高 2 文系科目選択のあり方
- 3、教科会の活性化
- 4、入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
1、授業の厳正化 ①中学において、学習内容が増加した新課程の対応として、地理、歴史、公民 3 分野の基礎学力を定着させる授業の実施。 ②授業内容を理解させるため、より授業に集中できる雰囲気作りの実施。 ③授業アンケートを参考にし、個々の教員による授業技術向上に向けた研鑽の研究。 （教員による外部の研修会等への積極的な参加の検討及び実施）	A B B	B B B
2、高 2 文系科目選択のあり方 ①第 1 回文理選択希望調査日までに、高 1 学年と連携の上、日本史・世界史担当者より科目特徴を選択生徒達に理解させる機会を設定し、熟考の上選択させる仕組みの検討及び実施。	B	B
3、教科会の活性化 ①教科会の実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施の検討。 （科目間など小グループからでも実施の継続） ③思考力・判断力・表現力を重視した、新課程研究を始める。	B B C	C C C
4、平成 28 年度本校入試問題の研究 ①他校の入試問題などを研究し本校入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、科目内担当者間で研修をはかる。	A A	A B

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

2、高 2 文系科目選択のあり方

高 1 学年に対し、日本史・世界史担当者より科目特徴を生徒に理解させる機会を昨年度より継続して実施できた。しかし、教科としては、第 1 回文理選択希望調査日までに、日本史・世界史の科目内容の特徴を少しでも早く生徒に理解させる機会としかったが、高 1 学年との連携がうまくいかず、調査日の直前の実施となってしまった。今後は、学年だけでなく、進路指導部とも連携し、文理選択も含めた中で実施していきたい。

3、教科会の活性化

教科会の実施と科目間の連携については、教科内の認識共有のための必要最低限の回数しか実施出来なかった。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

3、教科会の活性化

今年度より、思考力・判断力・表現力を重視した新課程研究を始めることを取り組み内容に含めたが、公立中学校の出前授業等や、各授業において、教科内の各々の担当者に任せ、組織的に取り組む事が出来なかった。今後は、教科において組織的に取り組む体制を整えていきたい。

その他

特進コースについては言うまでもないが、総合進学コースにおいて、高 2 以降の大学入試に必要な科目については、模試の偏差値向上と難関大学合格を見据えた多少難度の高い授業展開を行っていきたく思っている。しかし、その際において、授業内容の検討が必要である。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	数学科	記入者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成28年度の重点目標（4月末）

1. 授業の厳正化 2. 数学力の向上 3. 教科会の活性化 4. 中学高校入試問題の研究と編集の効率化

2. 平成28年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
1. 授業の厳正化		
・個々のより深い教材研究と教材の共有	B	B
・研究授業の実施	C	C
・各コースの特性を見据えた指導計画と実践	B	B
2. 数学力の向上		
・家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進	B	B
・各学年、目標偏差値をクリアすることを目指した模擬試験対策 おおよびやり直しの徹底	B	B
・個々の能力に応じた補習、講習の実施	A	A
・大学入試問題の研究・研修と生徒への還元	B	B
・特進コースの国公立大合格率向上 （最後まで目標を持って諦めさせない）	B	B
・総合進学コースの一般入試合格率向上 （指定校・AO入試に頼らず実力をつけさせる）	B	B
3. 教科会の活性化		
・連絡の徹底と教科内の共通認識	B	B
・教科における情報交換と研修	B	A
4. 中学高校入試問題の研究と入試編集の効率化		
・標準的な良問作成のための入試問題の研究	B	B
・入試問題作成時間の短縮および平等化	A	A
・編集委員全員の確認作業の徹底	A	A

＊ 遂行度…項目の進捗状況 達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

3. 平成28年度の成果と課題（3学期終業式）

1. 授業の厳正化 各コースの特性を考慮した教材研究を行い、授業に反映させ、担当教員間での情報交換を行うことで、より良い教材を共有し授業を進めたが、教科全体での取り組みとしてはできなかった。 2. 数学力の向上 家庭学習・自主学習をきっちりやらせ、学習状況の把握に努めようとしたが、与えられた課題等はやってくるが、それ以上の自分のための勉強までは手が回っていなかった。 模試対策についても徹底したやり直しまで至らなかった。 （高3は目標大学があるので個々に対応） 3. 教科会の活性化 できるだけ週1回の教科会は開き、情報交換と教科内の共通認識に努めた。 4. 中学高校入試問題の研究と編集の効率化 教科担当者全員が入試問題の原案を出し、良問の問題を作ることができた。 編集に於いても、8月の下旬から始めたので余裕を持って進めることができたが、今年度は適性検査を外部発注したので、そちらの方に時間を取られた。
--

4. 今後取り組む内容（3学期終業式）

1. 授業の厳正化 教科全体での取り組みを重視し、授業見学や入試問題の分析討論を行い、教科内での研修を深め、より良い授業を目指す。 2. 数学力の向上 個々には工夫をし、試行錯誤しながら実践しているが、教科全体で統一性を持って計画的に進めていかなければならない。 特進コースは自覚をもって勉強するが、総合コースが補習メインになってしまいがちで、講習参加者を増やすことが大事。 3. 教科会の活性化 事務的な伝達だけに終わるのではなく、大学入試問題の研究や上記の1および2の実践に向けての検討ができるようにする。 4. 中学高校入試問題の研究と編集の効率化 教科担当者全員が入試問題案を提出した。編集に於いてはクラブや補習などで全員が揃うことができないので、2部制にすることで効率よく進めることができた。 5. その他 アクティブラーニングやICTについても、研修を受けたり、学んだことを教科で検討したりして、導入の方向で前向きに考えていく。
--

部署名	理 科	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

昨年度までの目標から継続し、以下の 3 つを重点目標とする。

- ① 指導力を向上し、授業内容を充実する。
- ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。
- ③ 中高連携などに関して教科内で研究する。

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 指導力を向上し、授業内容を充実する - a 実験や観察を多く取り入れ（特に中 1）、興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導法を教科内で共有する。 - b 可能な限り多くの理科教員が研究授業を実施し、これをもとにして、教科会で意見交流を行う。 - c 進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行い、教科内で情報を共有する方法を研究する。	A	B
	A	B
	C	C
② 大学入試に対応できる学力をつけさせる - d 6 年間または 3 年間の補講習計画を立案する。また、生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 - e 「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。	B	B
	A	B
③ 中高連携などに関して教科内で研究する。 - f 高校の学習内容のうち、中学校で実施可能な内容について、さらに研究を進める。 - g I C T を用いた授業について研究し、新課程研究を進める。	C	D
	B	C

* 遂行度…項目の進捗状況
達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- 3 つの重点項目についてそれぞれまとめる。
- ① 指導力を向上し、授業内容を充実する。
 - c 個人個人での入試問題の研究はできているが、教科としての力量アップにはつながっていない。互いの情報交換と共有を進めていけるように努めたい。
 - ② 大学入試に対応できる学力をつけさせる。
 - d 英語や数学を優先して理科に時間をかけていない、または時間をかける余裕がないケースが増えているように感じる。その実情に合わせた効率の良いプランを考えていかなければならない。
 - e 形骸化してしまうのがいちばん怖い。復習の重要性をもっと意識させるように指導していきたい。
 - ③ 中高連携などに関して教科内で研究する。
 - f 新年度からは、一つの校舎で中高の授業をする形になるので、これをチャンスととらえ進めていきたい。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- 3 つの重点項目について、次年度も引き続き教科として取り組みたい。毎年目標としながら進まない項目があるので、教科として前進できるように取り組んでいきたい。特に、大学入試に対応できる学力を身につけさせる努力は、今以上にしていかなければならない。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	英語科	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ①英語学力の向上
- ②英語学習の動機づけに繋がる取り組みの充実
- ③成果に繋がる指導法の研究

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①英語学力の向上 ・小テスト実施による学習定着 ・英検受験の奨励	A A	A A
②英語学習の動機づけに繋がる取り組みの充実 ・高校英会話講習会の充実 ・中学イングリッシュキャンプの充実 (学習強化合宿内での実施を含む) ・英語圏で使われている教材の多読（中学校） (オックスフォード・リーディング・ツリーを使用)	A A A	A A A
③成果に繋がる指導法の研究 ・教員間の授業方法、授業工夫の紹介	C	C

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

取り組み①

- ・定期的な小テストの実施は、英語学習の習慣化と定着において大いに効果を発揮したと思われる。今後もこの流れは継続されるべきである。

英検受験も年に 3 回（その内 2 回は校内実施）受験することができ、また、各先生方の協力のお陰で、毎回かなり多くの生徒に受験を実施することができた。受験結果も、年々合格者が増えており、英検の継続実施の効果が出ているといえる。今後もこの流れは継続させたい。

取り組み②

- ・高校英会話講習会は今年度で 2 年目となったが、毎回生徒達の反応はかなり良好であり、継続実施を望む結果が出ている。実際に一日の実施だとしても英語学習の新たな動機付けには大いに貢献したと思われる。今後も継続実施をおこないたい。
- ・中学校のイングリッシュキャンプも生徒からの感想でかなり好評結果が出ている。英語学習の動機づけにはもってこいの行事である。
- ・英語圏使用教材に目に触れさせることは、英語学習への興味付けにはもってこいといえるので、継続して実施したい。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

取り組み③がなかなか実施できなかった。

教員研修の大切さは誰もが認めることではあるが、各担当者の多忙さを考えると、機会を作ることがほとんどできなかった。

教員間の指導法の研究をどのように実施していくのかが今後取り組むべき課題と言える。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

- ・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	保健体育科	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。

各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
時間を守る 授業開始時間に遅れない	B	B
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	A	A
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	B
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	B	B
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	A	A
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	A	A
整理整頓 準備・後片付け	B	B
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED 使用方法	A	A

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

全体的には体育技能、能力面においては年々少しづつ低下しているように感じる。

時間を守ることや集団行動は体育のみでなく、実生活や授業態度にもつながることでもあるので、体育の授業だけでなく他の授業にも活かせるように引き続き重点的に指導をおこなっていく。

心肺蘇生法については実際には体験できることは無いことが好ましいが、生命の尊重という観点からも、保健の授業でも知識を理解しダミーを使った実習をしております。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。

生涯を通じた健康、体育との関連性を生徒たちに理解させる。

更なる時間管理、集団行動の必要性を徹底させ、学校全体にも意識付けさせていく

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	芸術科	記入者	
-----	-----	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

1. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
2. 評価、評定の方法について協議する。
3. 行事への協力、取り組み。

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
1. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ① 表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽 演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術 絵画表現（描写、着色）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道 楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 ② 中学の音楽・美術においては、期末考査の実施に向けて詳細に検討する	A	B
2. 評価、評定の方法について協議する。 ① 平常点の割合の研究、分析等を行う。	A	B
3. 行事への協力、取り組み。 ① 聖徳書道展への協力。 ② 芸能鑑賞等、教務部との連携。	A A	A B

* 遂行度…項目の進捗状況 達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

・今年度、中学 1 年生においては音楽・美術の授業時数 45 時間が、うまく確認できた。次年度も計画的に進めていきたい。

・中学での音楽・美術は学期末での考査を実施した。しかし、1 学年 1 クラスであり、平常点との関係もあるため、このまま実施すべきかどうか再考の必要があると感じた。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

・芸術で何を学ばせるかを再度考えたい。そして評価について、どうあるべきか継続して考えていきたい。

部署名	技術家庭科	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上
- ② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成
- ③ 男女共同参画社会を意識した教育推進
- ④ 教材の整備
- ⑤ 実践的授業の実施計画

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①技術・家庭科に対する学習意欲の向上 ・授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。（本物志向の展開・・・本物を見て触らせる） ・未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科との連携を図った授業を展開する。	B B C	B A C
②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。	C C	B B
③男女共同参画社会を意識した教育推進 ・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。	B	A
④教材の整備 ・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見いだし展開できる問題解決的な教材を検討する。 ・情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。	B B	B B
⑤実践的授業の実施計画 ・ものづくりは行程が重要であるため、構想の表示から設計・製図、材料・工具の研究、製作、仕上げを、計画的に実施する。 ・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。	B B	B A

* 遂行度…項目の進捗状況
達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- < 技術 >
- ① 実習の計画をしていたが、実際動き出せるのが遅れ、家庭科と実習が重なり教科間での動きが悪くなってしまった。授業担当者との早期計画を綿密に行う必要があった。
 - ② パソコン教室を活用し、ICT を意識した授業が展開でき、引き続き実施していきたい。
 - ③ 専門性を高め、教材研究を家庭科と共に深める必要がある。関連事項などは積極的に取り組み、連動性を持ちたい。
- < 中学家庭 >
- ① 例年より実習の開始が遅れ、補習の時間が必要となり、時間を取るのに苦労した。
 - ② 中学 2 年 3 学期からプロジェクターによる授業を取り入れた。学習の浸透がある者とそうでない者はいるが、目新しさに生徒たちは興味を持って取り組んでいた。
- < 高校家庭 >
- ① 総合進学、特進関係なく学習意欲が高く、平常点も含め考査の点数が高くなった。学年末考査では特進よりも総合進学の方が平均点は良かった。
 - ② さらに授業が深めていけるよう教科書の内容などを精査していきたい。また、他教科より ICT 教育を進めていけるよう率先して研究していきたい。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- 情報教育の推進を図る。
プロジェクターやビューボードを活用した授業を目指す。
- 授業研究を深め、教材を精査する。
より深めた学習を追求する。
- 実習計画を見直し、実習課題を速やかに実施できるようにすすめる。
綿密な計画を立て、補習が極力ない指導をする。
- 他教科との連携を図り、資料などの収集をする。
勉強会などの計画を立て実行したい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	情報科	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ① 授業計画の再検討
- ② PC 教室の活用の促進

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 授業計画の再検討		
・ 新課程における年間指導計画の再検討	C	C
・ 効果的な実習内容の検討	B	B
・ 座学で扱う内容についての再検討	C	C
② PC 教室の活用の促進		
・ 他教科における PC 教室の活用	C	C
・ 放課後等での PC 教室の開放	C	C

* 遂行度…項目の進捗状況
達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- ①
 - ・ 新課程における年間指導計画の検討は一定の成果はあったが、今後も継続的に検討していく。
 - ・ 効果的な実習内容の検討については、成果はあったが、今後も検討していく。
 - ・ 座学で扱う内容については、一定の成果はあったが、今後も検討する。
- ②
 - ・ 他教科における PC 教室の活用は、中学の授業（国語、社旗、英語、技術、宗教等）で実施された。
 - ・ 放課後等での PC 教室の開放については、一部クラブにおいて実施されたが、学校全体での開放には至らなかった。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ① 授業計画の再検討
 - ・ 新課程における年間指導計画の再検討
 - ・ 効果的な実習内容の検討
 - ・ 座学で扱う内容についての再検討
- ② PC 教室の活用の促進
 - ・ 他教科における PC 教室の活用
 - ・ 生徒用 PC の整備
 - ・ 放課後等での PC 教室の開放
- ③ 大学入試制度改革に関する情報収集
 - ・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

- ・ 各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
 - A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
 - B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
 - C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
 - D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	宗教科	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ①校訓、学順の理解
- ②授業内容のさらなる充実
- ③宗教行事の理解と実践

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①校訓、学順の理解 （１）授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。	B	B
（２）礼儀作法について学習、実践をする。	C	C
②授業内容のさらなる充実 （１）授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。	B	B
（２）生徒の理解に適した授業を展開する。	B	B
③宗教行事の理解と実践 （１）授業にて宗教行事の由来、意義を学習する。	B	B
（２）生徒参加による宗教行事の実践をする。	B	C
（３）花まつり当番校として引継ぎ伝達を行う。	B	B

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

宗教の授業を通じての実践、合掌、一枚起請文奉読、十念は概ね元気よくできている。

しかし、学年が上がる（特に中 3、高 3）につれて、声が小さくなる、恥ずかしがる、周囲の様子をうかがい、黙り込む状況が見られる。

授業で学習、鑑賞した教材の内容について、自分なりに考え努力してくれた。

ここにおいても、周囲の様子、自分の本心を欺くように鑑賞に集中できない者もいた。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

宗教、宗門の学校としての認識、自覚を持った生徒を目指す。

新入生合宿などで、基本的な礼儀作法、挨拶、上宮太子の生徒になる気持ちを確認させていく。

生徒の興味、関心を引き出す授業を展開していく。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	中学 1 年	記入者	
-----	--------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ・入学した 24 人の生徒、一人たりとも転退学者を出さないよう全力で取り組む。
- ・生活面では、独り善がりになることなく他人を思いやる仲の良い友人関係を育てていく。
- ・学習面では、国語・数学・英語の基礎力養成を軸に、毎日の学習習慣をつける。

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
・生徒を注意深く見守り、少しの変化も見逃すことなく早期に問題を発見し素早く対処する。	A	A
・家庭との連携を密にし、学校への理解を深めていただき保護者、教師の双方が同じ考えのもと生徒を指導する。	A	B
・担任会・学年会の活性化 学年担当で情報を共有し、問題に対して迅速かつ綿密に対応できるよう取り組む。	B	B
・基本的生活習慣の確立、助け合える集団の育成 周りの友人に対して、嫌な思いを抱かせないように言動に注意させ、他人を思いやる人間性を身につけさせる。 また、いじめや嫌がらせのない、学校が楽しい場になるようなクラス、学年を作らせる。	B	B
・学習習慣の確立及び学習意欲の向上 国語・数学・英語を中心に、常に各教科の宿題に取り組ませる習慣をつけ、家庭学習のリズムを作る。分からない所は教えあう習慣を定着させる。	B	B
・漢検・英検の合格率の向上 英語検定 5 級の全員合格を目指す。 漢字検定 4 級の全員合格を目指す。	B	B
・総合学習・学習定着タイムの有効活用 総合学習での英語力向上の取り組みを実施する。また、学習定着タイムにおいて、各教科の基礎力向上をはかる。	B	B

＊遂行度…項目の進捗状況 達成度…項目の達成・評価状況
年度末評価について（遂行度、達成度共通）
・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

3. 平成 28 年度の成果と課題（10 月末）

- ・生徒を注意深く見守り、少しの変化も見逃すことなく早期に問題を発見し素早く対処する部分に関しては、少人数ということもあり、目が行き届いていると考えられる。
- ・担任会・学年会の活性化に関しては、できていないのが現状であるが、連絡は取りあっている。
- ・基本的生活習慣の確立、助け合える集団の育成に関しては、なかなか小学校のくせが取れない者もいるが、指導を根気よく続けている。
- ・学習習慣の確立及び学習意欲の向上に関しては、学習ポイントカードというものを導入し、家庭学習の定着をはかっている。成果は少しずつではあるが、出始めている。
- ・漢検・英検の合格率の向上に関して合格者は増えている。
- ・総合学習・学習定着タイムの有効活用に関しては、英語の取り組みを考えていたが、現在は脳トレなどをし、発想力と思考力を鍛えている。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ・学習ポイントカード制度を導入し、家庭学習の定着をはかったことで家庭学習に関して一定の成果を上げることができたと考えられ、全ての生徒ではないが、半分程度の生徒は家庭学習の取り組みが出来始めている。特に女子生徒に効果があった。
- ・落ち着いた者が数人いるため、根気よく指導を行ったが、これはその生徒の成長も待つ必要がある。
- ・三学期はスタディサブリを継続し、利用することが、いまいちでできなかったところもあり、新年度はまた再び早い段階からのリスタートを考えている。年間を考えた時に、一学期の早い段階のスタートを次年度中一への申し渡しとしたい。
- ・生徒を注意深く見守り、少しの変化も見逃すことなく早期に問題を発見し素早く対処する部分に関しては、少人数ということもあり、目が行き届いていると考えられるが、まだまだ対応をしていかなければならない家庭も存在する。
- ・漢検・英検の合格率の向上に関して合格者は増えているので二年次も継続したい。
- ・学習定着タイムの有効活用に関しては、英語の取り組みを考えていたが、現在は脳トレなどをし、発想力と思考力を鍛えている。
- ・総合学習に関しては、英語の取り組みをおこなったが、イングリッシュキャンプと英語劇のタイミングが合い、効果的にできたと思う。

部署名	中学2年	責任者名	
-----	------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成28年度の重点目標（4月末）

- ① 責任ある言動・行動。
- ② 確かな学力を身につける。
- ③ 基本的な生活習慣を身につける
- ④ 中弛みの防止。

2. 平成28年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 2年生になり後輩ができた今、1年生で許されていた言動や行動を反省し、責任のある行動を取ることを目指す。自分の発言・行動が周りにどのような影響を及ぼすのかしっかりと考えさせる。	B	B
② 早朝テストや各教科での小テストなどをくり返し、日々の小さい積み重ねがいかに大切であるかを再度経験させる。また、早朝読書を通じて、落ち着いて読書に取り組ませ、語句の使われ方や微妙な言い回しなどを身につける。	B	A
③ 日々の学習の成功の裏には基本的な生活習慣が身についているかいないかに関わっていると思われる。もう一度、普段の生活を見直させる機会を設ける。	B	A
④ 中弛みが多く発生する2年生においては、個々でしっかりした目標を定めさせ、迷いが出ないようにする。また、学習内容の難易度が最も高くなる学年であるので、中弛みが影響しないようにさせる。	B	A

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成28年度の成果と課題（3学期終業式）

- ① 責任ある言動・行動。
一年生次に比べ、言動や行動に注意するようになったと思われる。
口げんかや、揉め事が激減したことから分かると思う。
夏合宿では、英語を中心に様々な体験をしたが、そのことが生徒達一人一人が自分に対して自信をつけたことが責任ある行動に繋がったと考える。
- ② 確かな学力を身につける。
自分で欠点を見つけだし、自分で学習するようになったことが成績を残す要因になったと思う。調査前の「学習計画表」の保護者のコメントを見ていると、その様子が窺えた。
- ③ 基本的な生活習慣を身につける
授業中も落ち着いて学習することができ、また遅刻欠席等も減っていることから基本的な習慣は身につけていると考える。
- ④ 中弛みの防止。
以前は心配したが、大きな中弛みをする生徒はいなかった。

4. 今後取り組む内容（3学期終業式）

自分で学習する習慣が身についてきたとは言え、全員がそのようなようになったわけではないので、次年度は学習において前向きでない生徒の指導を継続的にしていきたい。
また、総合進学コースの生徒の成績が伸び悩んでいるので、来年度は補習などを多く取り入れて少しでも改善し、自信をつけさせたいと考えている。

中学最終学年でもあり、確かな学力をつけさせたいと考えている。特進コースは、難易度の高い問題などにチャレンジさせたいと思う。
総合進学コースは、今行っている学習をしっかりと取りこぼしなく身につけさせたいと思う。

退学した生徒は多いが、比較的落ち着いた、素直な生徒であるので、様々な経験をさせて育てていきたいと思っている。

中間評価は別様式で提出してください。（10月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	中学3年	責任者名	
-----	------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成28年度の重点目標（4月末）

- ・中学校最後の学年を充実させ将来の進路や目標に向けて立ち向かい、高校に繋がるようにする。
- ・学校だけではなく、家庭での学習にも意欲的に取り組ませる。
- ・学習面、生活面において1年生、2年生の後輩の良き手本となるよう一人ひとりの自覚を促す。
- ・家庭との連携をこれまで通り蜜にしていく。

2. 平成28年度の取り組み内容（4月末 年度末評価は3学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
■ 高校に繋がるように ① 落ち着いて学習できる環境を作る。 ② 勉強とクラブ活動の両立を果たす。 ③ 課題は期限内に仕上げ、提出する。 ④ 体育大会、上宮祭、修学旅行などの学校行事に積極的に取り組む。 ⑤ けじめのある言動ができる。 ⑥ 英語検定、漢字検定 総合進学コースは4級から3級へ、 特進コースは3級から準2級への合格者を増やす。 ⑦ 教室内外の美化に努め、ごみがあれば率先して片付ける。 ⑧ 早朝読書を取り入れる。 ⑨ 後輩から慕われる良き先輩になる。	B B C A B C C B B B	B B C A B C C B A A
■ 家庭との連携 ① 生徒をよく観察し、何か変化があれば直ぐに家庭連絡する。また、逆の場合には家庭から担任へ連絡してもらえるようにする。 ② 三者懇談、授業参観などを通じて、生徒の学校での様子を正確に知ってもらえるようにする。	A A	A A

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成28年度の成果と課題（3学期終業式）

中学校生活を締めくくる最後の学年で、高等学校進学後高校生活に適應できることを目指して、今年度の取り組み内容を考えた。

まだまだ考え方が甘く、自主的に学習に取り組むことができない生徒もあり、高校での学習に不安がないと言えは嘘である。しかし、人間関係は大変良好な状態で3年間を過ごしてきた。入学した52名のうち保護者の強い意向で2名は転校したが、その後は転校する生徒はなく、人間的には素晴らしい50名である。したがって、4月からは3か年コースの生徒達とも打ち解けて仲良くやってくれると確信している。

家庭、保護者との連携は1年次から密にし、お互い率直に意見交換できる関係を作り上げてきた。ただ、保護者の気持ちは当然のことながら「我が子供が一番」であるので、保護者と担任の間で少々意見が衝突することも見られたが、ごくごく稀な現象である。おおむね良しと判断できる。

4. 今後取り組む内容（3学期終業式）

やはり、全員が高等学校で適應でき無事に卒業できるかである。本人の努力は言うまでもないが、担当する教員におかれては「学力不足」な生徒もいることを是非とも理解してご指導いただきたい。

少しずつ大人に成長していく過程において反発することもあるうかと思うが、そこは寛大な対応を願いたい。生徒の話をじっくり聞いてやり、より良い方向に導く必要があると考える。

教員の対応が、中学校でのものと高校でのものと当然異なるが、本校中学校の生徒の現状を是非ともご理解いただきたい。

生徒の学校離れを防がんためにこれでも中学校では努力したつもりである。

中間評価は別様式で提出してください。（10月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	高1学年	記入者	
-----	------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- (1) 校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある生活態度の実践
- (2) 生徒・保護者・教員の意味疎通
- (3) 学力向上のための方策と学習習慣の確立
- (4) 担任団・学年担当者・各分掌との連携・意味疎通

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
(1) ①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	C	C
②メリハリのある生活態度の実践と助け合える集団作り	B	B
③教員と生徒との信頼関係を築く	B	B
④前向きな上宮祭への取り組み	B	B
(2) ①家庭と学校との綿密な連携	B	B
②効果的な LHR や学年集会の実施	B	B
(3) ①『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり	B	B
②「前向きな姿勢」を意識した学習への取り組み	C	C
③ 家庭での学習の習慣の確立	B	B
④ 定期考査前の補習の実施	B	B
※総合進学コースの目標		
①良き生活習慣の確立、学校生活の充実	B	B
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値が 50 を越える生徒数 50 名を目標。	D	D
③高 1 終了段階で英語検定 3 級の全員合格を目指す。	D	D
④学習定着タイムの積極的な利用	C	C
※特進コースの目標		
①良き生活習慣の確立、学校生活の充実	B	B
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 50 を下回らないこと。目標はクラス平均全国偏差値 55。	A	A
③高 1 終了段階で英語検定準 2 級の全員合格を目指す。	B	B
④徹底した英語指導による英語力の向上	A	A
(4) ①学年担当者会議の可能な限りの実施	C	C
②日常の会話による生徒の情報交換	B	B

※ 遂行度…項目の進捗状況 達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

本年度の成果としては、特進クラスの躍進と生活リズムの確立を達成できたことである。特に、国語・数学・英語の 3 教科全ての平均偏差 50 以上を達成し、中でも特進クラス進学者においては、3 教科それぞれで 5 ポイント以上の成績アップとなった。その基盤にあるのは、春からしっかりと学習習慣を身に付けさせたことにある。結果として 3 学期には、毎日かなりの課題をこなせるようになり、毎日 2 ～ 3 時間の家庭学習も当たり前にするようになった。

逆に、課題としては、総合進学コースにはしっかりと学習習慣がつけられなかった。よって、成績面でも上手く伸ばすことができず、成績を下げる結果となった。ここは非常に反省すべき点である。

生徒指導面では、一年生特有の小競り合いや問題行動はいくつかあったが、生活指導の対象となるような事象は起こらずに一年を過ごすことができたのは収穫であった。各クラスとも、日を追うごとにそれぞれのコミュニティができ、うまく機能するようになってきたが、いまだ友人関係に悩んでいる生徒も少数存在している。目を離さず、引き続きのサポートが必要であると感じている。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

来年度は、学習面においては、特進コースはさらにレベルアップを目指した授業内容を推進していくことになるが、ペースは同じで進めていく予定。段々と負荷を増やしていき、国公立大学受験に通用する「真の学力」を養成したい。総合進学コースにおいては、全面的に授業や補習講義、宿題などを見直し、2 年後の大学進学を見越した改革が必要になる。4 月から共通認識をもって、各教科で取り組みを始めていきたい。

また、最も問題が起こりやすいのが 2 年生である。もちろん、生活指導面にもしっかりと目を配っていきたい。

「中だるみ」の学年にならないよう、担任全員で生徒への意識改革を促し、教科担当の先生方の協力も得ながら、自らの進路について「当事者意識」を強く持った生徒を育てられるよう留意したい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	高 2 学 年	責任者名	
-----	---------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成28年度の重点目標

- ①生徒・保護者・教員との密接な連携による基本的生活習慣の確立
- ②学力の向上と家庭学習の定着。
- ③自主性・協調性・責任感を育てる行事の取り組み。
- ④担任団・学年担当者・各分掌との意思の疎通。

2. 平成28年度の取り組み内容

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①・学期に1回は必ず生徒との二者面談をし、日々生徒の様子を把握して、保護者と常に連絡を密にする。 ・基本的生活習慣を身につけさせる。 (挨拶、服装、頭髮、言葉遣いなど)	A A	A A
②・授業に対して真剣に取り組む姿勢を作るため、授業開始に黙想を取り入れ、心を落ち着かせる。 ・目標大学を明確にして、自学習の習慣を身に付けさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自分で行えるようにする。 ・授業と補講習を充実させ、特進コースは国公立大学、総合進学コースは関関同立を一般入試で合格するだけの實力をつけさせる。	A A B	A B C
③・修学旅行の充実 ・球技大会、校外学習などの自主性・協調性を育てるような行事を企画する。 ・上宮祭においては、各クラスの催し物に積極的に参加するよう促し、一人ひとりに責任を持たせる。	A A	A A
④・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全職員が同じ方向性で指導にあたり、全員で生徒の夢・希望を応援する。	C	B

3. 平成28年度の成果と課題 (3学期終業式)

- ①生徒・保護者・教員との密接な連携による基本的生活習慣の確立
学期に1回は必ず二者面談をおこない、生徒の様子を把握し、目標をもたせることができた。また、保護者と常に連絡を密にした。
- ②学力の向上と家庭学習の定着
家庭学習・自主学習を定着させようとしたが、課題等は提出するが、それ以上の自分のための勉強や、受験勉強までは手が回っていなかった。
スタディーサプリをきっちり取り組ませることも必要。
- ③自主性・協調性・責任感を育てる行事の取り組み。
修学旅行の方面が急遽変更となったが、全員が、終始素敵な笑顔で、心から楽しんで一生の思い出に残る旅行になった。
球技大会では、はじめて女子だけのバレー大会を種目に入れたが、かなり盛り上がっていた。
- ④担任団・学年担当者・各分掌との意思の疎通。
学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、生徒の夢・希望を応援したかったが、学年担当者会議がなかなか開けなかった。

4. 今後取り組む内容 (3学期終業式)

将来の職業や夢、目標はかなりの生徒が明確になってきたようである。
自分のために自ら講習を受けたり、家庭学習で1・2年の総復習をやりだす生徒もでてきている。
自分の進路を現実として受け止め、何かをはじめないといけないという気持ちになってきている状態である。しかし、模試の結果をみると、成績・実力的にはまだまだではあるが、今の意識をもっと高めてモチベーションを上げ、自ら受験勉強に向かうように持っていけば、まだまだ伸びる要素が十分あると思われる。
学年が1つとなって、全体的に受験ムードを上げていくことと、個々の生徒に具体的なアドバイスをしながら、自分の可能性を信じさせ、前向き・積極的に受験勉強をスタートさせることが大事である。

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

部署名	高3学年	責任者名	
-----	------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- (1)校訓「正思明行」・学順の実践
 (2)生徒・保護者・教員の意思疎通
 (3)国公立大・関関同立・産近甲龍を意識した進学指導
 (4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導 ②参列者全員が感動する思い出に残る卒業式の実施	A A	A A
(2)①家庭と学校との綿密な連携 ②効果的なL H R や学年集会の実施	A B	B B
(3)①『合掌』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり ②競争することを意識した学習への取り組み ③早朝テストで英語・数学を実施することによる大学入試を意識した 毎日の家庭学習の習慣の確立 ④定期考査前の補習の実施	A C A C	B C C C
※総合進学コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 5 0 以上を目指す。 ③関関同立・産近甲龍を意識させる洗脳指導	B D B	B D D
※特進コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値 5 0 を下回らないこと。 そして、全国偏差値 6 0 を目指す。 ③国公立大・関関同立を意識させる洗脳指導	A B B	A D D
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施 ②日常の会話による生徒の情報交換	B A	C A

* 遂行度…項目の進捗状況
 達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- 総合進学コース
- ・習熟度のクラス編成は、生徒の意識を向上させるには成果があったといえるが、指定校推薦を希望する生徒が集中したことが課題である。
 - ・関関同立・産近甲龍の合格者をもっと増やさないといけない。特に、関関同立と近大の難化傾向を感じた。
 - ・摂神追桃は、A O 入試はほぼ合格する。しかし、ろくに勉強せずに合格し、合格後も勉強しない。
 - ・12 月の期末考査後の進路決定者に対する特別授業にとっても苦勞した。受験生も教員も受験に集中するために、休みにすべきである。

- 特進コース
- ・上宮太子初の東京大学現役合格者を出すことができた。
 - ・一方、国公立大学合格者数が激減してしまった。反省すべき点・改善すべき点は、明確であり、同じ過ちをしてはいけない。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

今回の反省を踏まえ、改善すべき点は改善し、次年度の各々の部署と連携をとり、各自が計画的に目標を立て、そして自覚し「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」を達成するため頑張るしかない。

- 中間評価は別様式で提出してください。(10 月末)
 年度末評価について（遂行度、達成度共通）
- ・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
 A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
 B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
 C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
 D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	広 報	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方）
目標として、男女比率の女子の比率をあげる。
- ②ブログのアップ回数を 2 日に 1 回のペースを目指す。
- ③太子独自のグッズの作成。（愛校心を高める）
- ④卒業生に対する広報活動の検討。

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方）目標として、男女比率の女子の比率をあげる。 【学校案内、各種リーフ、ホームページ等の見せ方の研究】	B	B
②ブログのアップ回数を 2 日に 1 回のペースを目指す。 ・各学年、クラブ活動の協力をお願いしながらアップ回数を上げる。	C	D
③太子独自のグッズの作成。（愛校心を高める） ・生徒が持ちたい、使ってみたいと思うグッズの作成を生徒会の力を借りながら作成を進める	D	D
④卒業生に対する広報活動の検討。 ・社会で活躍している卒業生に対して広報活動を行うことにより母校に対する意識を高め、卒業生の力を借りながら学校の価値を高めていく。	C	C

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- ① 今年度も大阪の学校案内を集め分析をおこなった。
- ② 他校の状況を他の分掌に情報として伝えることができなかった。
- ③ 今年度は、業者選定および広報内容について精査をおこなった。費用対効果を考え有効だと思われるものにかなり絞り込んだ。
- ④ ブログのアップ回数をなかなか増やすことができなかった。ホームページの改善をいくつか実施することができた。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ① 本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方）
目標として、男女比率の女子の比率をあげる。
- ② ブログのアップ回数を 2 日に 1 回のペースを目指す。
- ③ 卒業生に対する広報活動の検討。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	事務室	責任者名	
-----	-----	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ①適切な事務処理水準の維持
- ②校内・教育環境のさらなる整備
- ③消耗品等、管理経費の削減

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①適切な事務処理水準の維持 ・今年度より 6 名中 1 名の減員がなされ、大変厳しい状況である。しかしながら、この現状に屈することなく質を落とさず事務処理にあたりたい。そのためには、常に高い意識をもって職務に当たることが大切である。些細な部分をこそ、しっかりと確認する。仕事の内容によっては、2 人以上でダブルチェックを行いミスを防ぎたい。 ・各自の仕事内容をお互いに把握し連携を密にすることで、未然にミスを防ぐ。 ・教務の先生方とも連絡をこまめにとることで、遺漏のない事務処理を行いたい。 ・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切丁寧を心がける。	B	B
②校内・教育環境のさらなる整備 ・年度末に庶務係・教務・事務で各教室の点検を行い、不良個所の修繕を行った。破損等が軽微なうちに修繕を行うことで、痛みの広がりを防ぎたい。 ・教室のカーテンの汚れが目立ってきたので、クリーニングに出すなど、環境美化に努める。 ・ICT 教育に関する部分でのバックアップ。情報の提供を図る。	B	C
③消耗品等、管理経費の削減 ・倉庫を整理整頓し、無駄な在庫の発生を防ぐ。また、同一消耗品を統一し、品数を減らし経費の削減に努める。	B	B
	C	C

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

①適切な事務処理水準の維持

減員された中で質を落とさないよう努力を続けてきた。しかしながら、度々ミスが発生し、修正しきれない部分もあった。
証明書類の誤発行を防ぐためのダブルチェックは習慣になりつつあり、評価できる点である。

②校内・教育環境のさらなる整備

年度末の点検に基づく教室整備は一定の成果が見られた。課題としてはカーテンのクリーニングが実施できなかった点があげられる。これは新年度に引き継いで行きたい。

倉庫の整理整頓や不用品の廃棄で倉庫内は一定の整美が整った。しかしながら、消耗品の管理が徹底されず、一部の品の在庫が偏るなどの事例が発生した。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

①事務処理の水準維持と向上

これらにつつき、引き続き更なる改善・工夫を行いたい。新年度には職員の異動が予定されているので、連絡を綿密にし、遺漏の無いよう引継ぎを行いたい。日常の業務における横の連絡に関しては、基本となる部分が出来ているので、油断せず意識を高く持ち取り組みたい。

②校内・教育環境の整備

平成 28 年度末に高校校舎の芸術関連教室を普通教室に改装する工事があり、これに大きな予算を割かざるを得ない。従って、残りの予算で環境を整備しなければならないが、計画を綿密に立てて無駄のないよう、効果が最大限出るような形で結果を残したい。

③消耗品等、管理経費の削減

7・8 番倉庫の整理を徹底し、消耗品の管理を厳格に行いたい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

部署名	学校評価	責任者名	
-----	------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

①学校評価に関する企画・立案・実施
②学校評価の報告書の作成・提出
③授業アンケートに関する企画・立案・実施
④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施
⑤保護者・生徒・教職員アンケートの企画・立案・実施

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 平成 28 年度の各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成	A A C	A A C
② 平成 27 年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成	A	A
③ 授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討	A	B
④ 学校関係者評価に対する資料作成	A	A
⑤ 保護者・生徒・教職員アンケートの実施とその後の活用方法	B	B

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- ・各部署に依頼し、スケジュール通りに実施できた。
- ・予定の資料が揃い、データとしてまとめることができた。
- ・有効活用については、まだまだ新たな視点を考える必要があり、どういう使い方ができるか、検討する余地がある。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ・今年度 3 年ぶりに保護者・生徒・教職員のアンケートを実施した。その結果をふまえて 3 年後に実施予定のアンケートに備えたい。
- ・第 3 者評価委員会の検討。
- ・今までとは異なる資料の検討。
- ・他校の学校評価の在り方の研究。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

- ・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	業務推進室	責任者名	
-----	-------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ① 今後のデータ処理システムの考察
- ② 個人情報の管理の徹底
- ③ 環境の充実
- ④ 業務軽減への方策

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 今後のデータ処理システムの考察 ・ 個人カルテの作成の検討	D	D
② 個人情報の管理の徹底 ・ 個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・ 個人データの管理の徹底	C C	C C
③ 環境の充実 ・ イン트라ネットの整備 ・ 教員へのノートパソコンの貸し出し ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理 ・ データのバックアップ体制の充実	C C C B	D C C B
④ 業務軽減への方策 ・ 分掌内での情報の共有化の徹底 ・ 効率的な業務の分担の実現 ・ 作業マニュアルの改訂	D C D	D C D

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

- ①
 - ・ 個人カルテの作成については、校務システムの導入の検討もあったため、進まなかった。
- ②
 - ・ 個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については、個別対応にとどまった。
 - ・ 個人データの管理の徹底については、個別対応にとどまってしまう、全体としては不十分であった。
 - ・ イン트라ネットの整備は、校務システムの検討しかできなかった。
 - ・ 教員へのノートパソコンの貸し出しについては、適宜実施した
 - ・ ファイルサーバ内のフォルダ整理は、一定の成果があった。
 - ・ データのバックアップ体制の充実、一定の成果があった。
- ④
 - ・ 分掌内での情報の共有化の徹底は、十分とはいえなかった。次年度も徹底できるよう心掛ける。
 - ・ 効率的な業務の分担の実現については、一定の成果はあった。
 - ・ 作業マニュアルの改訂は、十分とは言えなかった。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

- ① 今後のデータ処理システムの考察
 - ・ 校務システムの導入の検討
- ② 個人情報の管理の徹底
 - ・ 定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起
 - ・ 個人データの管理の徹底
- ③ 環境の充実
 - ・ イン트라ネットの整備（校務システムの検討を含む）
 - ・ 教員へのノートパソコンの貸し出し
 - ・ ファイルサーバ内のフォルダの整理
 - ・ データのバックアップ体制の充実
- ④ 業務軽減への方策
 - ・ 分掌内での情報の共有化の徹底
 - ・ 効率的な業務の分担の実現
 - ・ 作業マニュアルの改訂

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

- ・ 各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。
 A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合
 B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合
 C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合
 D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	人 権 教 育	記入者	
-----	---------	-----	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ① 新しい教材を開発する
- ② ・育てる人権教育の実践（中学校）
・正しい知識を身につけさせる（高校）
- ③ 保護者や関係機関に対する学校の窓口として、また、校内や関係機関との連携を推進し連絡調整としての役割を担う。（支援コーディネーター）
- ④ 校内研修により教職員の人権意識を高める

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
① 教材の開発 ・生徒の実態を考慮した教材の開発 中・高での男女共生・ジェンダー問題 ・インターネットと人権などに関する新しい教材を開発する ・部落史や日朝関係の歴史を正しく知らせる教材の開発	B	B
② 育てる人権教育の実践（中学校） ・人権教育読本「にんげん」、「私たちの道徳」などを活用する ・居心地がいい、安心していられる集団づくり ・構成的グループエンカウンターを使ったエクササイズの実践 正しい知識を身につけさせる ・部落史や日朝関係の歴史を正しく知って、差別を考えさせる。（高校）	B	B
③ 人権教育推進会議の充実 ・人権教育 L. H. R の授業時間数の確保 ・本校の人権教育についての共通理解と深化 ・集団適応等で問題のある生徒の実体把握と共通理解 （支援コーディネーター）	B	B
④ 校内研修の実施	A	A
⑤ いじめ防止対策委員会に参加	C	C

* 遂行度…項目の進捗状況 達成度…項目の達成・評価状況

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

① 中学校では、「いのちをいただく」を作成し、新しい道徳本を使って「男女間の問題」「思いやりについて」などのエクササイズを作成した。

高校では中世・近世・近代と「シリーズ映像で見る人権の歴史①巻～④巻」の DVD 教材を活用してきました。近代以降こそ大切だと思われたので、融和運動・米騒動・水平社創立を部落の近代史のプリントを作成しました。また歴史の出来事がより具体的に理解できるように Q&A 方式を取り入れました。

日朝の歴史関係においては、第 1 回の渡来人の図説は詳しくて煩雑になった。古代から近・現代までの歴史を Q&A 方式を含むプリントを作成しました。日本史の知識が必要な部分もあって難しかったが、徐々にですが、自分の意見を述べる生徒が増えてきた。

② 育てる人権教育の実践

なかなか継続的・効果的な実践ができなかった。

③ 推進会議については、いつものとおりである。

④ 校内研修については、多民族共生人権センターの文公輝さんを招いてベイトビッチから考える在日コリアンの人権（歴史教育の重要性）の題目で講演していただいた。とても理解し易かったため、高く評価したい。

4. 平成 28 年度の今後取り組む内容（3 学期終業式）

① 部落史の DVD 教材を使った新しい教材の作成は、近代までは完成しました。近代以降、自ら作成せざるを得なかったのですが、しんどいですが、作成者自身のためになりました。来年度は、近現代は DVD を使わず、プリントの教材を作成します。

② 育てる人権教育については、先生方に理解してもらっても実践が困難なようである。

③ 推進会議は、各学期末に組み込んでいただいています。各学年から忙しい中、ていねいな報告を頂いている。

④ 夏の校内研修は、講師の先生に「ベイトビッチから考える在日コリアンの人権」というタイトルで講演をして頂き、歴史教育の重要性を改めて認識しました。私学人権以外の研修にも結構ためになるのもあるので、これからは、資料をインフォメーションボードに貼るようにしたいと思います。来年度も引き続いて、多民族共生人権センターの文公輝さんに講演してもらおうと思います。

部署名	中学・高校図書室	責任者名	
-----	----------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

- ①図書室の運営・管理の充実
- ②希望図書の購入と選定の充実
- ③読書活動の推進
- ④図書室利用生徒の状況の把握

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
①図書室の運営・管理の充実 （１）可能な限り開館に努める。 （２）購入新着本をできる限り早く登録する。 （３）不在時は節電をしてエコ化に努める。 （４）３月中に棚卸し作業、会計報告を行う。	B B B C	B B B C
②希望図書の購入と選定の充実 （１）年間２～４回の図書選定を行う。（中間考査、学期末にて） （２）生徒、教員の希望図書に対応する。	B	B
③読書活動の推進 （１）図書利用、読書の啓発に努める。	C	C
④図書室利用生徒の状況の把握 （１）中学生、高校生が読書、課題学習、受験勉強に専念できるように努める。 （２）男子、女子生徒が共用できる図書室を目指す。	C C	C C

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

高校図書室を中心に開館することで、高校生の本の貸し出し、放課後の利用は概ね実践できたと思える。

しかし、中学生においてはほぼ中学図書室が利用できず、不便をかけたと思われる。

赤本が進路に移動したことにより、高３の受験生が従来通り赤本を借りる機会をなくしたように思う。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

新年度より中学、高校共に高校図書室にて共同利用となる。中学生は図書室に通いにくくなることが予想される。教室内の学級文庫やその他の雑誌を充実させて、より良い、読書、学習の実践に取り組みたい。

赤本も従来通り、図書室に配架して貸出を行う。

朗読、暗唱の時間の取り組みも企画して実践していく。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合

部署名	保健管理	責任者名	
-----	------	------	--

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1. 平成 28 年度の重点目標（4 月末）

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る
2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
4. 学校保健組織活動の円滑な推進

2. 平成 28 年度の取り組み内容（4 月末 年度末評価は 3 学期終業式）

内 容	年度末評価	
	遂行度	達成度
1. 保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る		
① 定期、臨時の健康診断の円滑な実施と事後処置の充実	B	A
② 配慮を必要とする生徒の把握と共通理解	A	A
③ 救急処置の体制整備と迅速な対応、けがの予防	A	A
④ 学校環境衛生（校内の清潔化）、安全管理と点検	B	B
⑤ 学校感染症の予防と発生時の迅速な対応	B	A
2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践		
① 心身の健康課題を見出し、発達段階に応じた個別・集团的保健指導の実践	B	A
② 行事に合わせた保健指導の充実	B	A
3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化		
① 生徒、保護者が相談しやすい環境づくりとその問題の背景・要因を的確に把握し、全教職員と情報交換を図る	A	A
② スクールカウンセラーと生徒相談が連携し、共通理解を図る	B	A
4. 学校保健組織活動の円滑な推進		
① 心身の健康に関する情報発信	B	B
② 学校保健委員会（保健管理）の組織的運営を推進する	C	B
③ 生徒保健委員会の主体的な活動の推進 （検診準備及び介助、トイレの清掃、衛生材料補充、啓発活動）	C	B

* 遂行度…項目の進捗状況

達成度…項目の達成・評価状況

3. 平成 28 年度の成果と課題（3 学期終業式）

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

定期健康診断実施は今年度より「総合検診」として全項目を全学年一斉に 1 日で実施したことで、効率化を図り、円滑に実施できた。また、新たな運動器検診や色覚の検査に使用する保健調査票等の配布・回収等がスムーズに実施でき、スクリーニングにおいて効果的に役立てられた。また、臨時の健康診断においても、男女のプライバシーに配慮して学校教育活動の一環として教職員と組織的連携を図り実施することができた。

配慮を必要とする生徒の把握と共通理解では、保護者、各学年団と常に情報共有を行い、組織的な対応ならびに支援を行うことができた。

2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

心身の発達に特性のある生徒に対しては、発育・発達に応じた健康課題に向き合い個別の保健指導を行い、また、集团的保健教育では性の教育において前年度のアンケート結果を分析して、保健所の指導のもとに保健体育科と連携し、充実した取り組み内容で成果があった。また、宿泊的行事における健康管理や文化祭等の衛生管理にも昨年に比べて充実していた。

3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

男女の発達の特性を鑑み、相談しやすい環境作りに努めた。専門性を活かし、一人一人の心に寄り添うことに留意し、担任、保護者、教育相談（SC）、学年主任等と組織的な連携を深めることができた。複数の来室者の対応時はプライバシー等の課題が残る。

4. 学校保健組織活動の円滑な推進

生徒保健委員活動では、検診準備及び介助に関して、また、文化祭においては、保健所の指導の下に、「アレルギー表示」などの食品衛生管理の自主的活動を徹底することができた。

4. 今後取り組む内容（3 学期終業式）

1. 保健室の機能を充実し、保健管理の推進及び組織的連携を図る

インフルエンザの流行のため休校を余儀なくされ、学校感染症の予防と発生時の迅速な対応、予防啓発活動を引き続き積極的に行う必要がある。
的確な救急処置対応だけでなく、けがの予防に努め、スポーツ振興センター請求の実態や予防啓発教材を活用して、けがの予防情報の発信を進めていきたい。

2. 自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践

欠席者や欠課時数を減らすために、睡眠、栄養、運動などの基本的生活習慣を自立的に改善、健康増進が図れるように予防教育に努める。掲示物やプリント、たよりを充実させる。

3. 健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

心身に問題を抱える生徒の情報は、担任、保護者だけでなく、教育相談（SC）とカウンセリング後の状況や保健室における状況を含めて、必要に応じて現状報告を行い、連携を深めていく必要がある。また、「生活アンケート」の内容をあわせて、些細な心の問題にも注意を払い、組織的連携を図る。

4. 学校保健組織活動の円滑な推進

生徒が、主体的に活動できる保健委員会活動の企画（がんや喫煙の問題、エイズ予防等、心身の健康に関する情報発信など）をサポートしていきたい。

中間評価は別様式で提出してください。（10 月末）

年度末評価について（遂行度、達成度共通）

・各部署内で以下の基準で自己評価をしてください。

A・・・内容について予定通り進んだ、または、顕著に成果があったと評価できる場合

B・・・内容についてほぼ予定通り進んだ、または、成果があったと評価できる場合

C・・・内容についてあまり進んでいない、または、あまり成果が出ていないと評価する場合

D・・・内容について進んでいない、または、できていないと評価する場合